

業界の常識を変えて未来を拓く

いつでも安全に高品質な製品を出荷可能 世界初・最新鋭の材料貯蔵サイロ

大分センターアスコンでは、スマートマニュファクチャリングの実現に向け、材料貯蔵サイロにおいても、革新的な設備を導入しました。世界初となる「再生骨材貯蔵サイロ」と、最新鋭の「新材コルゲートサイロ」の導入により、重機を使用しない「重機レス」化を実現し、安全性の向上とCO₂排出量や製造コストの削減、また夜間の無人出荷に貢献しています。

また、両サイロには残量監視システムが導入され、サイロ内に貯蔵されている材料の残量をリアルタイムで把握することが可能となりました。一方、通常のストックヤードに材料保管している事業所でも、在庫管理システムと連動した画像認識とAIによる日常管理が可能となっています。このような取り組みにより、プラント業務における省力化を推進しています。



リサイクルとCO₂排出量削減への貢献

リサイクルとCO₂排出量削減への貢献 世界初の「再生骨材貯蔵サイロ」

老朽化した道路を補修する際に切削された舗装は、クラッシングプラントで粉碎処理され、再生骨材として再利用されます。通常、再生骨材は古いアスファルトや自重による圧密により固着するブロッキング現象が発生することから、サイロでの貯蔵が難しく、ストックヤードに保管し、重機で運搬する必要がありました。その課題解決のため、世界で初めてとなる、一定時間ごとに排出した材料をサイロ上部に戻して循環させることにより、ブロッキング現象を防ぐ機能を備えた「再生骨材貯蔵サイロ」を開発しました。



再生骨材貯蔵サイロ

重機を使用しない材料供給で作業効率と安全性を向上 「新材コルゲートサイロ」

1基あたり約280tの材料を貯蔵し、最大200t/hの搬送能力を備えた「新材コルゲートサイロ」は、ICタグの活用による誤投入の防止や、雨水の侵入を防ぐことで安定した品質を確保します。

また、「再生骨材貯蔵サイロ」とともに、重機（ホイールローダ）を使用せずにアスファルトプラントへ材料供給できるため、場内での接触事故のリスクが激減し、作業の安全性が飛躍的に向上しました。また、重機稼働の削減はCO₂排出量の大きな削減につながり、当社のカーボンニュートラルと環境負荷低減の推進に大きく貢献しています。



新材コルゲートサイロ*

*コルゲートサイロ：軽くて高い強度を持つ波板上の鋼板（コルゲート）を使った筒状の設備